

# 平成23年度別府市学力向上推進計画

別府市教育庁学校教育課

## I 目標

### 1 全国学力・学習状況調査及び基礎・基本の定着状況調査における学力の状況及び数値目標

■ 平成21年度設定の下記目標（県平均正答率との差）を達成する

① 目標1 平成21年度：-2.0以上の開き → 平成23年度：0.0～-1.0以内

② 目標2 平成21年度：-2.0～0.0の開き → 平成23年度：県平均以上

#### 【全国学力・学習状況調査】

小学校	平成20年度結果	平成21年度結果	平成22年度結果	平成23年度目標
国語A	-3.4	-0.5	-3.4	+1.0
国語B	-3.6	-0.1	-5.1	+1.0
算数A	-3.2	-1.0	-3.9	+0.5
算数B	-3.1	-1.5	-2.4	+0.5

中学校	平成20年度結果	平成21年度結果	平成22年度結果	平成23年度目標
国語A	-1.3	-2.5	-3.0	-0.5
国語B	-2.5	-4.5	-6.1	-1.0
数学A	-2.3	-4.2	-2.2	-1.0
数学B	-2.0	-5.2	-4.7	-1.0

#### 【基礎・基本の定着状況調査】

小学校	平成20年度結果	平成21年度結果	平成22年度結果	平成23年度目標
国語基礎	-0.5	-3.4	-1.0	-0.5
国語応用	-3.4	-4.9	-2.2	-1.0
算数基礎	-1.0	-1.1	-0.6	+0.5
算数応用	-1.1	-3.4	-2.1	-0.5

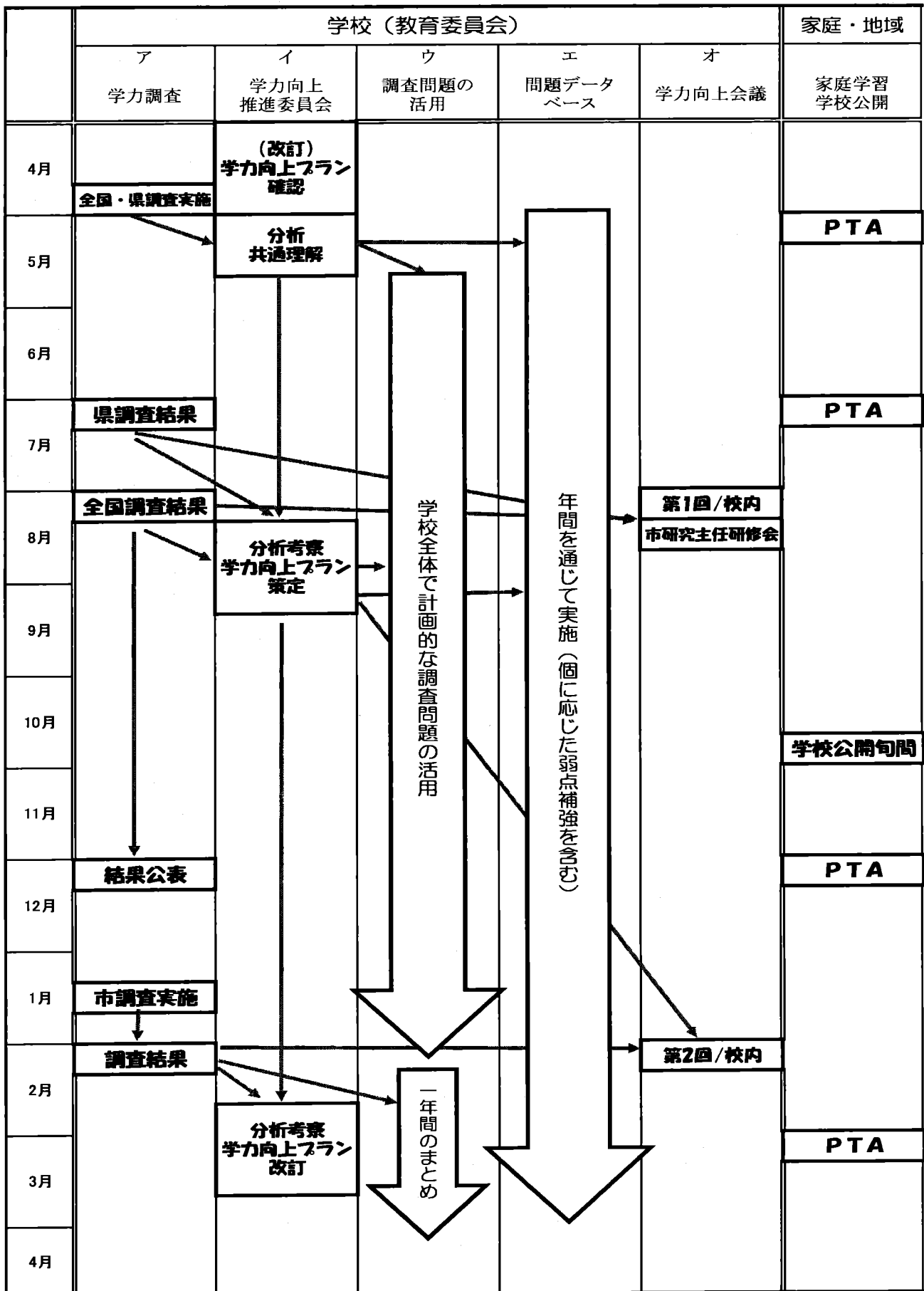
中学校	平成20年度結果	平成21年度結果	平成22年度結果	平成23年度目標
国語基礎	-2.2	-3.0	-1.6	-0.5
国語応用	-4.0	-3.1	-1.7	-0.5
数学基礎	-3.1	-0.8	±0.0	+1.0
数学応用	-4.1	-2.6	-1.6	-0.5
英語基礎	-3.8	-3.2	-4.1	-1.0
英語応用	-5.3	-6.0	-3.3	-1.0

#### ◇ 平成22年度学力の状況

- 全国学力・学習状況調査において県平均正答率との差が依然として大きい。
- 基礎・基本の定着状況調査においては、県平均正答率との差が縮小している。

II 学力向上対策行動計画

別府市学力向上対策行動計画



ア 別府市学力調査の実施【効果測定】

- ① 目的：小3・4、中1の児童生徒の状況把握と早期対応
- ② 実施方法：国語、算数・数学、英語

学 年	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
実 施	市	市	県	国	市	県	国
教科数	2	2	2	2	3	3	2

※ 平成24年1月13日（金）予定

※ 調査結果に基づいて、補充学習等を実施

- ③ 効果測定（平成24年2月実施）

小3、小4、中1の学力調査においても、前述の目標I-1に準ずる

イ 学力向上推進委員会による分析・考察等の充実

- ① 目的：全教職員による共通理解と共通実践
  - ② 実施方法：解説資料及び報告書等の活用
- ※ 設問単位の正答率や誤答等の活用

ウ 大分県教育委員会学力向上支援システム及び調査問題等を活用した指導の充実

- ① 目的：弱点克服に向けた指導
  - ② 実施方法：分析・考察等により、各学年に応じた指導
- 該当学年の完全実施（効果測定：平成24年2月実績調査実施）

エ 問題データベースの活用

- ① 目的：個に応じた指導の充実
- ② 実施方法：ドリルプリント→たしかめプリント→（フォローアッププリント）  
→チャレンジプリント→実力テスト（効果測定：平成24年2月実績調査実施）

オ 学力向上会議の充実

- ① 目的：PDCAサイクルの確立と創意工夫を凝らした改善策の検討
- ② 実施方法：校内：自校以外（他校種）の教員の参加推進  
市内：教科部会を中心とした指導方法改善の取組  
研究主任研修会での指導方法改善の取組及び情報交換

カ 一人一公開授業の充実

- ① 目的：一人一人の教員の授業力の向上
- ② 実施方法：年間計画に基づいて授業を公開し、相互批正により指導方法の工夫改善  
指導主事の学校派遣の充実（全学級訪問の実施）

## キ 別府市助成教育実践研究発表事業

### ◇ 平成23年度発表校及び研究主題（平成22年度主題）

- ・ 春木川小学校：確かな力を育む春っ子の育成
- ・ 緑丘小学校：聴き合い学び合う授業を求めて
- ・ 青山中学校：一人ひとりが安心して楽しく学べる教室づくりをめざして

## ク 「活用型学力」向上推進事業

### ◇ 教科別特別研修講座（悉皆研修）

- ① 目的：活用型学力向上のための教科指導について理解を深める
- ② 実施方法：大分大学教育福祉科学部教授等による講義

中学校の教員対象に夏季休業中に実施（小学校は平成22年度実施済）

### ◇ 活用型学力向上研究協力校

- ① 協力校：南小学校、浜脇中学校
- ② 実施方法：年間2回の公開授業研究会、講師派遣、別府市総合教育センター研修部の支援

## ケ 家庭学習の充実

- ① 目的：家庭学習習慣の確立・家庭の教育力の向上
- ② 実施方法：PTA等での計画的な協力依頼（小中連携を通して）  
「家庭学習の手引」「家庭学習計画表」配付（市教委案に基づいて各学校が作成）
- ③ 指導内容：学年及び児童生徒の実態に応じた家庭学習の具体的内容等について支援

## コ 学校公開の促進

### ① 平成23年度

#### ◇ 別府市公立幼稚園、小・中学校「統一幼稚園・学校公開旬間」

- 平成23年10月24日（月）から平成23年11月2日（水）までの10日間
- 平成22年度実績（3807名）以上の参加者数を目標（効果測定：平成24年11月実施）

## カ 校長の授業観察

- ① 1日1～2単位時間（5～10単位時間／週）を実施
- ② 原則として、毎日授業観察を行う（効果測定：毎学期末に実績調査実施）
- ③ 授業及び学級経営についての指導助言を行う

## シ 平成23年度学力向上支援教員活用事業

### ① 使命

- ・ 本務校及び兼務校における算数科・数学科授業の改善及び児童生徒の学力向上
- ・ 授業公開による指導方法の市内共有
- ・ 小中学校連携による学力向上策の研究（鶴見台中学校における追跡調査を含む）

### ② 配置人数

- ・ 6名

### ③ 配置校及び配置方法

- ◇ 小中連携型（3名）
  - ・ 鶴見台中学校、石垣小学校、春木川小学校
- ◇ 単独型（2名）
  - ・ 朝日小学校、大平山小学校
- ◇ エリア（兼務）型（1名）
  - ・ 西小学校と別府中央小学校兼務

### ④ 活用計画

- ◇ 小中連携型3校をAグループ、単独型2校及びエリア型2校をBグループとする
- ◇ 学力向上支援教員公開授業（算数・数学）を各支援教員が年間5回実施し、市内教員は1人1回参観する
- ◇ 学力向上支援教員連携会議を実施する
  - ・ エリア連携会議＝毎月1回（Aグループ、Bグループがそれぞれ開催する）
  - ・ 市連携会議＝2か月に1回（Aグループ、Bグループが合同で開催する）
  - ・ 情報交換及び共同研究・研修を行う
  - ・ 未配置校に対する情報発信を行う

### ス 別府市地域教育力活性化事業（案）の活用（別府市教育庁生涯学習課）

- ◇ 学校支援、放課後子ども教室を公民館を拠点に各中学校単位で実施する

### <参考資料>

【別府市学力調査（平成23年1月14日実施）】（数値は、期待正答率との差）

	小学校第3学年	小学校第4学年	中学校第1学年
国語基礎	-7.9	-5.2	-1.8
国語活用	-13.5	-9.1	-3.6
算数・数学基礎	1.7	3.9	1.1
算数・数学活用	-9.5	-0.1	-1.5